

冬春いちごの費用対効果が 高いCO₂施用技術

花き・園芸部

1. 背景・目的

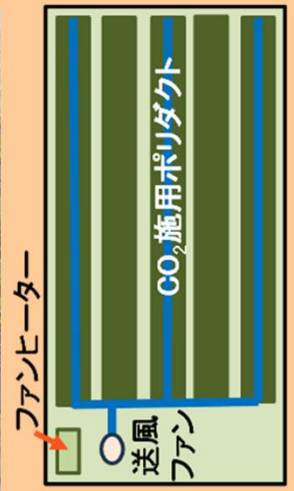


全国のいちご主要産地とは冬期間の気象条件が異なる本県において、冬春いちごのCO₂施用方法は確立されていません。そこで、本県の条件に合わせたCO₂施用方法を確立しました。

2. CO₂の施用方法



- CO₂施用はビニールハウスを締め切る時期のうち、日差しのある9時～14時の時間帯に1,000ppm程度を目安に行います。
- 100坪ハウス当たり、燃料消費量0.4L/h程度の灯油ファンヒーター1台で施用できます。

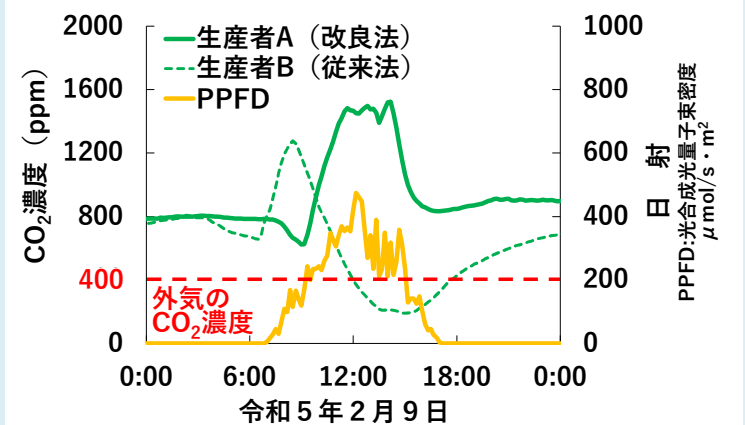


灯油ファンヒーターによるCO₂施用方法（ほ場写真と模式図）

3. 施用上の留意点



- CO₂濃度測定を行ってハウス内が5,000ppm以上になるような場合は速やかな換気が必要になります。
- 燃料消費量が多い型式の灯油ファンヒーターではハウス内のCO₂濃度が高くなりやすいため注意が必要です。



実測したCO₂濃度（100坪生産者ハウス）